

大学野球日本代表に「仙六」から2人

オランダで11〜20日に開かれる野球のハレム国際大会に出場する大学日本代表に、仙台六大学連盟から熊原健人投手(仙台大3年)と千葉義浩捕手(東北福祉大4年)が選ばれた。共に宮城県出身で、熊原は仙台大から初の代表となった。2人は「世界レベルを肌で感じ、地元がいい報告ができるよう頑張りたい」と健闘を誓う。

世界の舞台で健闘誓う



150センチ前後の直球とフォークボールが武器の仙台大・熊原



強肩が自慢の東北福祉大・千葉

柴田高出身の熊原は、150センチ前後の直球とフォークボールが武器。春季リーグ4勝、プレーオフ2勝の計6勝(無敗)を挙げ、仙台大の67季ぶりの優勝に貢献。全日本大学選手権でも、初戦で福岡大相手にタイブレーク十回を投げ抜き完投勝利した。

熊原「無失点に」／千葉「盗塁刺す」

球とフォークボールを低めに集め、代表を射止めた。フォークボールは春季リーグ戦の前に習得したばかりだったが、合宿に参加した打者からも高く評価され「自信になった」と言う。「巡ってきたチャンス。出番があったら無失点で終えたい」と闘志を燃やす。

千葉は東陵高出。自慢の強肩で今春、正捕手の座をつかんだ。代表選考合宿の紅白戦でも2安打するなど攻守で奮闘。参加した捕手6人の中から2人の代表枠に入った。

「肩を生かして盗塁を刺したい。大会までに完璧に近い状態に仕上げる」と気を引き締める。

ハレム国際大会には日本と米国、オランダ、台湾の4カ国が出場、優勝を争う。

バッテリーを組む可能性もある2人。熊原が「一緒に優勝を目指す」と言えば、千葉も「熊原をリードする機会があれば、フォークボールを有効に使い、相手を抑えたい」と意気込んでいる。